

## 第5章 総合的な学習(探究)の時間

### 第1節 総合的な学習(探究)の時間の目標

#### 1 総合的な学習(探究)の時間の目標

##### (1) 総合的な学習の時間の目標 (小・中学校)

###### 第1 目標

①探究的な見方・考え方を働かせ、②横断的・総合的な学習を行うことを通して、③よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

###### 目標の構成について

###### ① 探究的な見方・考え方を働かせる

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方を働かせることである。

###### ② 横断的・総合的な学習を行う

この時間の学習の対象や領域が、特定の教科等に留まらず、横断的・総合的でなければならないことを表している。言い換えれば、この時間に行われる学習では、教科等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくことでもある。

###### ③ よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

ア「よりよく課題を解決し」とは

解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目の前の具体的な課題に粘り強く対処し解決しようとする事である。

イ「自己の生き方を考えていく」とは

人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。また、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。

※ これら二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

##### (2) 総合的な探究の時間の目標 (高等学校)

###### 第1 目標

①探究の見方・考え方を働かせ、②横断的・総合的な学習を行うことを通して、③自己の在り方生き方を考えながら、④よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

① 探究の見方・考え方を働かせる

ア 探究の過程を総合的な探究の時間の本質と捉え、中心に据えることを意味している。総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく。

イ 各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせるということである。

※ 例えば、実社会・実生活の中の課題の探究において、言葉による見方・考え方、数学的な見方・考え方、理科の見方・考え方を働かせるなどの各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が、課題に応じて適宜組み合わせられながら、繰り返し活用されること。

ウ 総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせることである。

特定の教科・科目等の視点だけで捉えきれない広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い続けるといふ、総合的な探究の時間に特有の物事を捉える視点や考え方を働かせることである。

② 横断的・総合的な学習を行う

この時間に行われる学習では、教科・科目等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科・科目等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいく。

③ 自己の在り方生き方を考えながら

ア 人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。

イ 自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えることである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。

ウ 学んだことを現在及び将来の自己の在り方生き方につなげて考えることである。

④ よりよく課題を発見し解決していく

解決の筋道がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し解決しようとすることである。

## 2 総合的な学習（探究）の時間における指導計画

(1) 指導計画に示されるべき6つの要素

① この時間を通してその実現を目指す「目標」

② 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」

③ 「内容」との関わりにおいて実際に児童生徒が行う「学習活動」

※ 実際の指導計画においては、児童生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。

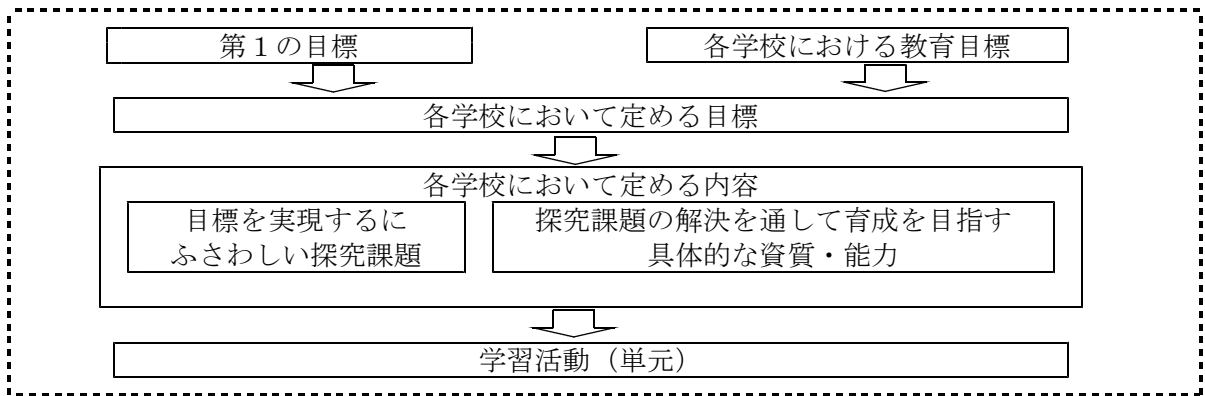
④ 「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」

⑤ 「学習の評価」

※ 児童生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、①～⑤の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。

⑥ ①～⑤の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」

## (2) 目標と内容と学習活動の関係



- 第1の目標を踏まえるとともに、各学校における教育目標を踏まえ、学校の総合的な学習（探究）の時間の目標を設定する。
- 内容として、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定する。
- 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つをよりどころとして、実際に教室で日々展開される学習活動、すなわち単元が計画、実施される。

## 第2節 総合的な学習（探究）の時間の内容の取扱い

### 1 各学校で定める目標及び内容等

#### (1) 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習（探究）の時間の目標を定める。

- ① この目標は、各学校が総合的な学習（探究）の時間での取組を通して、どのような児童生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にしたものである。
- ② この目標には、以下の2点を踏まえることが必要である。
  - ・ 「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲すること。
  - ・ 育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえること。
- ③ 目標を作成する上で考慮すべき点
  - ・ 児童生徒の実態 ・ 地域の実態 ・ 学校の実態
  - ・ 児童生徒の成長に寄せる保護者、地域、教職員の願い

#### (2) 内容

各学校において、第1の目標を踏まえ、総合的な学習（探究）の時間の内容を定める。

第1の目標の趣旨を踏まえて、地域や学校、児童生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定める。

内容の設定に際し、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定める必要がある。

#### ○ 目標を実現するにふさわしい探究課題

目標の実現に向けて学校として設定した、児童生徒が探究的な学習に取り組む課題であり、

それは探究的に関わりを求める人・もの・ことを示したものである。

※ ここでいう探究課題とは、指導計画の作成段階において各学校が内容として定めるものであって、学習活動の中で児童生徒が自ら設定する課題のことではない。

#### 【小学校】

- ① 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ② 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題
- ③ 児童の興味・関心に基づく課題

#### 【中学校】

- ① 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ② 地域や学校の特色に応じた課題
- ③ 生徒の興味・関心に基づく課題
- ④ 職業や自己の将来に関する課題

#### 【高等学校】

- ① 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ② 地域や学校の特色に応じた課題
- ③ 生徒の興味・関心に基づく課題
- ④ 職業や自己の進路に関する課題

(課題としての条件)

- ・ 探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること。
- ・ その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと。
- ・ その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること。

#### ○ 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体化する。具体的な資質・能力については、他教科等と同様に、「育成すべき資質・能力の三つの柱」に沿って設定していくが、その際、それぞれ以下の点に配慮する必要がある。

##### ① 知識及び技能

他教科等及び総合的な学習（探究）の時間で習得する「知識及び技能」が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすることが大切である。資質・能力として各教科等で身に付ける「知識及び技能」については、具体的な事実に関する知識、個別的な手順の実行に関する技能に加えて、複数の事実に関する知識や手順に関する技能が相互に関連付けられ、統合されることによって概念として形成されるようにすることを重視している。こうした概念が理解されることにより、知識や技能は、それが習得された特定の文脈に限らず、日常の様々な場面で活用可能なものとなっていく。

総合的な学習（探究）の時間においても、個々の探究課題を解決しようとする中で、児童生徒は様々な知識や技能を結果的に習得していくが、それらが統合されて概念的理解にまで達することを目指すことが求められる。そのために、内容の設定の段階において、どのような概念の形成を期待するのかということを明示する必要がある。

##### ② 思考力、判断力、表現力等

様々に異なる状況や複雑で答えが一つに定まらない問題に対して、「知識及び技能」を繰り返し活用・発揮することが大切になる。その過程で、問題状況の特質や情報の性質、表現する相手やその目的等によって、どの「知識及び技能」が適切であり有効であるかなどに気付いていく。そのような経験の積み重ねの中で、次第に未知の状況においても活用できるものとして、

思考力、判断力、表現力等は確かに育成されていく。

内容の設定の段階において、探究課題の特質から想定される問題状況、収集が可能な情報の性質、整理・分析において有効な観点、まとめ・表現において想定される相手や目的などを十分に検討すべきである。また、その探究課題の解決において、どのような思考力、判断力、表現力等が求められるのか、効果的であるかを十分に予測し、その解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力として設定することが求められる。

③ 学びに向かう力、人間性等

「自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を含む」ようにすることが求められる。

第1の目標において、「学びに向かう力、人間性等」に関しては、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」ことが示されている。「他者や社会との関わり」として、課題の解決に向けた他者との協働を通して、積極的に社会に参画しようとする態度などを養うとともに、「自分自身に関すること」として、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことを通して、学ぶことの意義を自覚したり、自分のよさや可能性に気付いたり、学んだことを自信につなげたり、現在及び将来の自分の生き方につなげたりする内省的な考え方（Reflection）といった両方の視点を踏まえて、内容を設定することが考えられる。

※ 育成すべき資質・能力（小学校の例）

【思考力、判断力、表現力等】

「学習方法に関すること」
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 問題状況の中から課題を発見し、設定する</li><li>・ 手段を選択し、情報を収集する</li><li>・ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画する</li><li>・ 必要な情報を収集し蓄積する</li><li>・ 問題状況における事実や関係を把握し、理解する</li><li>・ 多様な情報の中にある特徴を見付ける</li><li>・ 課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える</li><li>・ 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する</li><li>・ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする 等</li></ul>

【学びに向かう力、人間性等】

「自分自身に関すること」
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする</li><li>・ 自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする</li><li>・ 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする</li></ul>
「他者や社会とのかかわりに関すること」
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 探究的な活動を通して、異なる意見や考えを受け入れて尊重しようとする</li><li>・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする</li><li>・ 探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする</li></ul>

## 2 各校種の内容例

※ 文部科学省の発行する以下の資料の中に実践事例が数多く掲載されている。  
「今、求められる力を高める総合的な学習（探究）の時間の展開（小学校編・中学校編・高等学校編）」  
（文部科学省）

参考URL [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/sougou/main14\\_a2.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm)

### 第3節 総合的な学習（探究）の時間における学習活動の指導

#### 1 総合的な学習（探究）の時間の学習指導

##### (1) 学習指導の基本的な考え方

- ① 第1の基本・・・学び手としての児童生徒の有能さを引き出し、児童生徒の発想を大切にし、育てる主体的、創造的な学習活動を展開する。
  - ア 学び手としての児童生徒の特徴
    - (ア) 本来、知的好奇心に富み、自ら課題を見付け、自ら学ぶ意欲をもった存在である。
    - (イ) 具体的な事実に直面したり様々な情報を得たりする中で、対象に強い興味や関心をもつ。
    - (ウ) 実際に体験したり調査したりして、繰り返し対象に働きかけることで、対象への思いを膨らませていく。
    - (エ) 未知の世界を自らの力で切り開く（拓く）可能性を秘めた存在である。
    - (オ) 興味ある事象について学習活動に取り組む児童生徒は、納得するまで課題を追究し、本気になって考え続ける。
    - (カ) 学習の過程において、児童生徒はよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てていく。
  - イ 教師の基本的姿勢
    - (ア) 児童生徒がもつ本来の力を引き出し、それを支え、伸ばすように指導していくことが大切であり、そうした肯定的な児童観・生徒観に立つことが欠かせない。しかし、児童生徒の主体性を重視するということは、教師が児童生徒の学習に対して積極的に関わらないということの意味するものではない。
    - (イ) 児童生徒の主体性が発揮されている場面では、児童生徒が自ら変容していく姿を見守る。
    - (ウ) 児童生徒の取組が停滞したり迷ったりしている場面では、適切な指導を行う。
- ② 第2の基本・・・探究課題に対する考えを深め、資質・能力の育成につながる探究的な学習となるように、教師が適切な指導をする。
  - ア どのような体験活動を仕組み、どのような話し合いを行い、どのように考えを整理し、どのように表現し発信していくかを明確にした上で児童生徒の学習を活性化させ、発展させる。
  - イ 学習を展開するに当たって、教師自身が明確な考えをもち、期待する学習の方向性や望ましい変容の姿を想定しておく。
- ③ 第3の基本・・・身近にある具体的な教材、発展的な展開が期待される教材を用意する。
  - ア 総合的な学習（探究）の時間の教材としての二つの条件
    - (ア) 児童生徒の身近にあり、観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりすることのできる具体的な教材
      - ※ 総合的な学習（探究）の時間は、探究的な学習の過程に体験活動を適切に位置付けることが重要であり、そうした中で行われる全身を使った対象の把握と情報の収集が欠かせない。
    - (イ) 児童生徒の学習活動が豊かに広がり、発展していく教材
      - ※ 一つの対象から、次々と学習活動が展開し、自然事象や社会事象へと多様に広がり、学習の深まりが生まれることが大切である。
      - ※ 生活の中にある教材であっても、そこから広い世界が見えてくる等、身近な事象から現代社会の課題等に発展していくことが期待される。

##### (2) 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」

- ① 「主体的な学び」の視点
  - 学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。
  - ア 課題設定
    - 児童生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにするために、実社会や実生活の問題を取り上げる。
  - イ 振り返り
    - 言語によりまとめたり表現したりする学習活動として、文章や論文、レポートに書き表したり、口頭で報告したりすることなどを行う。文字言語によってまとめることは、学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既存の知識とを関連させ、自分の考えとして整

理する深い理解につながっていく。

② 「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。

ア 三つの価値

(ア) 他者への説明による情報としての知識や技能の構造化

※ 児童生徒は身に付けた知識や技能を使って相手に説明して話すことで、つながりのある構造化された情報へと変容させていく。

(イ) 他者からの多様な情報収集

※ 多様な情報が他者から供給されることで、構造化は質的に高まる。

(ウ) 他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待

※ 実際の授業場面では、情報の質と量、再構成の方法等に配慮して具体的な学習活動や学習形態、学習環境として用意する必要がある。

③ 「深い学び」の視点

※ 探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められている。

※ 探究的な学習の過程では、各教科等で身に付けた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を活用・発揮する学習場面を何度も生み出すことが期待できる。それにより、各教科等で身に付けた「知識及び技能」は関連づけられて概念化し、「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付いて汎用的なものとなり、多様な文脈使えるものとなることが期待できる。

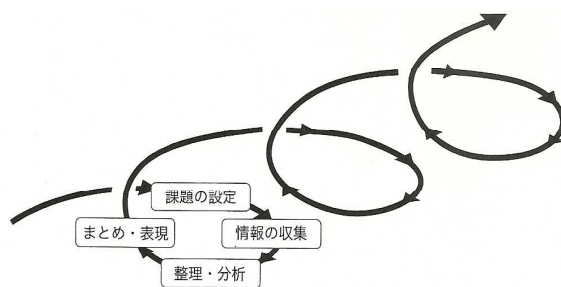
(3) 探究的な学習の指導のポイント

① 学習過程を探究的にすること

ア 「探究的な学習」の学習過程

- 【①課題の設定】 体験活動等を通して、課題を設定し課題意識をもつ
- 【②情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- 【③整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- 【④まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

イ 「探究的な学習」における児童生徒の学習の姿



- I 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。
- II 探究の過程を経由する。  
【①課題の設定】 【②情報の収集】  
【③整理・分析】 【④まとめ・表現】
- III 自らの考えや課題が新たに更新され探究の過程が繰り返される。

ウ 上図Ⅱ①～④の学習活動のイメージと学習指導のポイント

【①課題の設定】

○ 児童生徒が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展するようにする。

※ 課題の設定における配慮事項

- ・ 自ら課題をもつことが大切だからといって、教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。

(例)

人、社会、自然に直接関わる体験活動において、学習対象との関わり方や出会わせ方等を工夫する。

事前に児童生徒の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの児童生徒の考

えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりするなどの工夫をする。

- ・ (中学校) 生徒は潜在的に自分の将来に対しての夢や不安を抱き、将来を展望している。探究的な学習を展開する上で、生徒の実態を把握する。
- ・ 学習対象に直接触れる体験活動が重要であり、そのことが、その後の息の長い探究的な学習活動の原動力となる。

#### 【②情報の収集】

- 課題意識や設定した課題を基に、児童生徒は、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などの学習活動により、課題の解決に必要な情報を収集する。
- 情報の収集において、体験活動は重要である。

##### ※ 情報収集活動における配慮事項

- ・ どのような学習活動を行うかによって、収集する情報は多様である。  
測定等による数値化した情報、文献、インタビューから言語化した情報、体験活動を通じた感覚的な情報などを手に入れることができる。
- ・ 課題解決のための情報収集を自覚的に行う。  
体験活動自体の目的を明確にし、そこで獲得される情報を意識的に収集し蓄積する。どのような情報を収集するのか、どのような方法で収集するのか、どのようにして蓄積するのかなどの準備が整うことになる。
- ・ 収集した情報を適切な方法で蓄積する。  
数値化、言語化した情報は、デジタルデータや様々な形のデータとして蓄積する。収集した場所や相手、期日等を明示して、ポートフォリオやファイルボックス、コンピュータのフォルダなどに蓄積していく。  
蓄積が難しい感覚的な情報は、体験で獲得した情報をレポートなどで言語化して、学習対象として扱える形で蓄積する。
- ・ 情報の収集場面では、各教科等で身に付けた知識・技能を発揮できるようにする。

#### 【③整理・分析】

- 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行う。

##### ※ 整理・分析における配慮事項

- ・ 児童生徒自身が情報を吟味する。
- ・ どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定する。  
数値化された情報・・・統計的な手法でのグラフ化(折れ線、棒、円グラフ等)  
言語化された情報・・・カードにして整理する、出来事を時間軸で並べる、調査した結果をマップなどの空間軸に整理するなど
- ・ 何を、どのように考えさせたいのかを意識し、「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用する。  
(考えるための技法の例)  
比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けして考える、原因や結果に着目して考えるなど
- ・ 国語科の「情報の扱い方」や算数・数学科の「データの活用」をはじめ様々な教科での学習成果を生かす。

#### 【④まとめ・表現】

- 整理・分析を行った情報を他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。
- 児童生徒の既存の経験や知識と、整理・分析された情報とがつながり、一人一人の児童生徒の考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる。

##### ※ まとめ・表現における配慮事項

- ・ 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする。  
誰に伝え、何のためにまとめるのかによって、まとめや表現の手法は変わり、児童生徒の思考の方向性も変わる。



- ・ まとめて表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながる。
- ・ 伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、それを目的に応じて選択して使えるようにする。  
レポートや新聞、ポスターなどにまとめて、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現したりする。
- ・ 各教科等で獲得した表現方法を積極的に活用する。文章表現はもちろん、図表やグラフ、絵画、音楽などを使ったり、それらを組み合わせたりして表現する。
- ・ お世話になった事業所への礼状とその返信を教材化して活用する。体験して獲得した思いや考えだけに礼状の内容も形式的なものではなく、心のこもったものとなる。事業所に返信を依頼しておくことで、その返信は生徒にとって生きた教材となる。(中学校)

② 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

ア 他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動

- ・ 多様な考えをもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力の育成につながる。
- ・ 協働的に学ぶことにより、探究的な学習として児童生徒の学習の質を高めることにつながる。

イ 協働的に学ぶことの意義

・ 多様な情報の収集に触れること

同じ課題追究でも、収集する情報は協働的な学習の方が多様かつ多量である。情報の多様さと多さは、その後の整理や分析を質的に高めていく。

・ 異なる視点から検討ができること

一面的な考え方や同じ思考の傾向の中では、情報の整理や分析も画一的になりやすい。異なる視点や異なる考え方があることの方が、深まりが出てくる。

・ 相手意識や、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出すこと

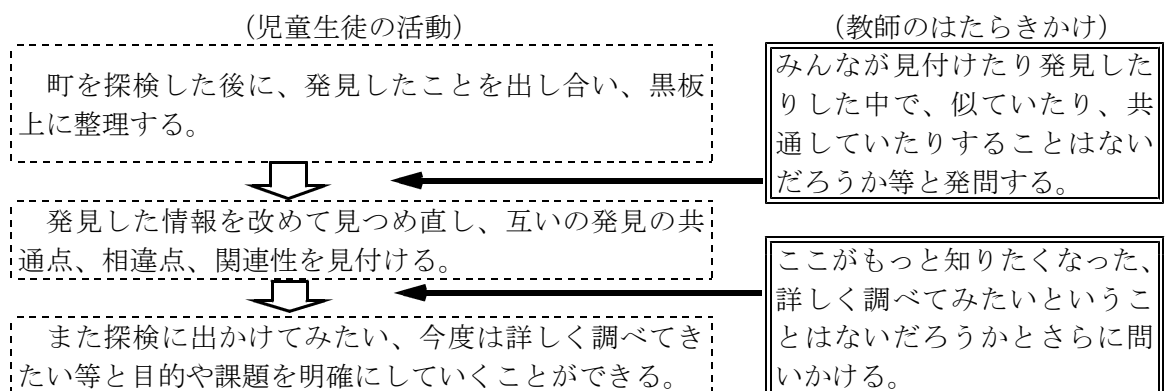
共に学ぶことが個人の学習の質を高め、同時に集団の学習の質も高めていく。

ウ 他者と協働して主体的に取り組む学習活動例

○ 多様な情報を活用して協働的に学ぶ

- ・ 様々な体験での多様な情報を出し合い、情報交換しながら学級全体で考えたり話し合ったりすることで、課題が明確になっていく場面。

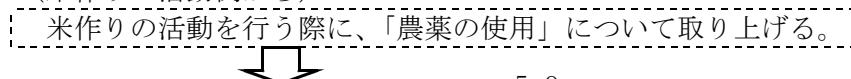
(「町探検」の活動例から)

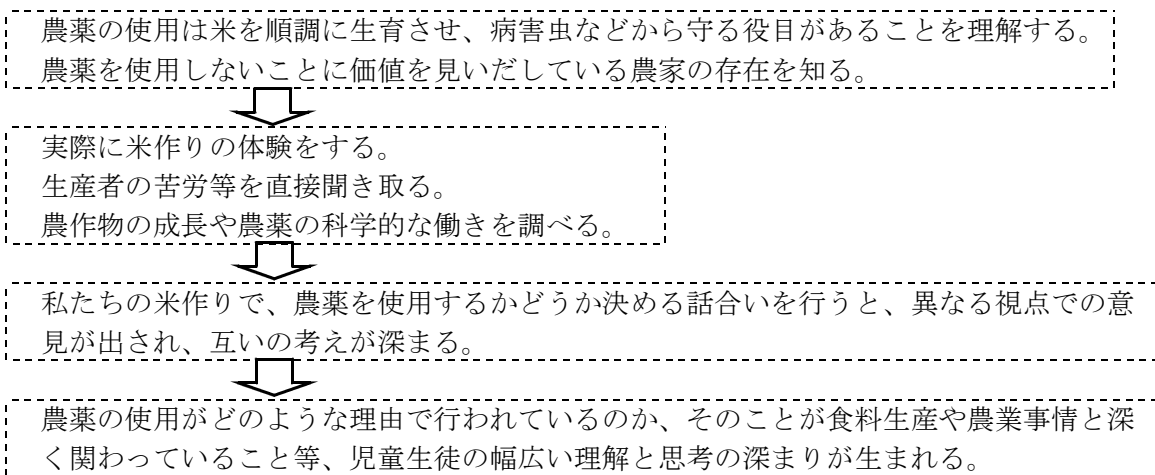


○ 異なる視点から考え協働的に学ぶ

- ・ 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、物事の決断や判断を迫られるような話合いや意見交換を行うことで、互いの考えが深まっていく場面。

(米作りの活動例から)

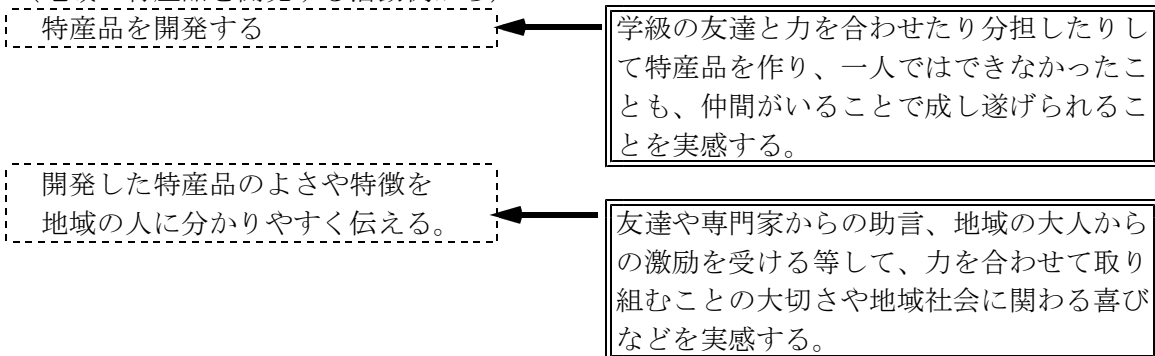




○ 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

- ・ 地域の人や専門家などと交流と通じて学んだことを手掛かりに学んだり、地域の大人などとの交流を通して社会参画の意識が目覚めたりする場面。

(地域の特産品を開発する活動例から)



○ 主体的かつ協働的に学ぶ

- ・ 「なぜその課題を追究してきたのか (目的)」、「これを追究して何を明らかにしようとしているのか (内容)」、「どのような方法で追究すべきなのか (方法)」などの点が児童生徒の中で繰り返し問われる。
- ・ 協働して学習活動に取り組むことが、児童生徒の探究的な学習を持続させ発展させるとともに、一人一人の児童生徒の考えを深め、自らの学習に対する自信と自らの考えに対する確信をもたせることにつながる。

／ 2 総合的な学習（探究）の時間の評価

(1) 児童生徒の学習状況の評価

- ① 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方
- ・ 総合的な学習（探究）の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述する。
  - ・ 各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校が総合的な学習（探究）の時間の目標を定める。この目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示した内容が設定される。この目標と内容に基づいた観点を、各学校において設定することが考えられる。
  - ・ 特に、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、以下の三点

に配慮することが大切である。

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習（探究）の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

## ② 評価規準の設定

総合的な学習（探究）の時間においては、年間や単元など内容や時間のまとまりを見通しながら評価場面や評価方法を工夫し、指導の改善や児童生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすることが重要である。

評価規準を設定する際の基本的な考え方や作業手順は以下のように考えることができる。

- ・ 各学校の全体計画や単元計画を基に、単元で実現が期待される育成を目指す資質・能力を設定する。
- ・ 特に実際の探究的な学習の場면을想起しながら、各観点に即して実現が期待される児童生徒の姿が単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージする。

## ③ 評価方法の工夫改善

### ア 信頼される評価の方法であること

- あらかじめ指導する教師間において、評価の観点や評価規準を確認しておく。
- 各学校において定められた評価の観点を、1 単位時間で全て評価しようとするのではなく、年間や、単元などの内容のまとまりを通して、一定程度の時間数の中において評価を行う。

### イ 多面的な評価の方法であること

- 発表やプレゼンテーションなどの表現による評価
- 話し合い、学習や活動の状況などの観察による評価
- レポート、ワークシート、ノート、絵、作文、論文などの制作物による評価
- 学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
- 評価カードや学習記録などによる児童生徒の自己評価や相互評価
- 教師や地域の人々などによる他者評価 など

### ウ 学習状況の過程を評価する方法であること

- 評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中で適切に位置付けて実施する。
- 多様な評価方法を、事前、活動中、終末の各過程に計画的に位置付ける。
- 全ての過程を通して、児童生徒の実態や学習状況を把握したことを基に、適切な指導に役立てる。

## ※ 評価における配慮事項

- ・ 児童生徒に個人として育まれるよい点や進歩の状況等を積極的に評価することや、それを通して児童生徒自身も自分のよい点や進歩の状況に気付くようにする。
- ・ グループとしての学習成果に着目するのではなく、一人一人の学びや成長の様子を捉える必要がある。そうした評価を行うためには、一人一人が学習を振り返る機会を適切に設けることが重要である。
- ・ 教師一人一人が、児童生徒の学習状況を的確にとらえることが求められる。そのためには、評価の解釈や方法を統一するとともに、評価規準や評価資料を検討して妥当性を高めることなどにより、学習評価に関する力量形成のための研修等を行っていくことも考えられる。